

外国にルーツをもつ子どもたちの学習支援について

社会文化システム学科 柴田隆行

1. SPIRIT とは

「外国にルーツをもつ子どもたちの学習支援」プロジェクト

英語名称は Study support Project for International children with Real Interaction at TOYO University.

SPIRIT はこの頭文字。

「外国人」と言わないのは、日本国籍となっているが日本語がほとんど使えない外国出身の人がいるから。

外国にルーツを持つ子どもたちに対して、大学生が「大学」という場所で、「教科学習と文化コミュニケーション」という手段を用いて、日本語の「読む・書く・聞く・話す」力の習得と日本の文化理解を支援することを目的とする。

2. SPIRIT の歴史

2009年9月 文京区内 NPO 法人 COMPASS の助言と支援を受け、学科の正規活動として出発。

2010年度より 学部予算を得て、教材や参考書の購入、教育機材の充実を図る。

2015年3月31日 社会文化システム学科公認・後援の学生サークルとする。

現在の正式名称「ボランティアサークル SPIRIT」（東洋大学日本語教室）

3. おもな活動

学習支援：盆と正月を除く毎週木曜日 18時30分から 20時00分。6号館4階 6404教室。

資料収集：教育委員会・学校・他団体等での資料収集。〔現在休業中〕

社会調査：〔現在休業中〕

交流活動：ぶんきょう多文化ネットに加盟し研修や交流会等に参加。

大学祭参加：大学祭展示による活動紹介。

その他：多言語高校進学相談会共催（年2回は本学で開催）

2017年6月25日 参加者 176名、13国

2017年11月12日 参加者 85名、25家族 47名（中国 19家族、韓国 1家族、バングラディッシュ 1家族、フィリピン 3家族、ネパール 1家族）、見学 6、スタッフ 32

2018年7月1日（日） 中国 31家族 62人、フィリピン 6家族 12人、ネパール 5家族 12人、タイ 5家族 12人、ミャンマー 1家族 3人、パキスタン 1家族 1人、リベリア 1家族 4人、小計 50家族 106人、見学 8人、来場者計 114人、運営スタッフ 50人

4. 学習効果

①多文化共生社会を肌身で感じ、社会学を日常感覚で学べる。

②他文化を知ることによって自文化の特徴をいっそう深く理解できる。

③教育は量ではなく質であることが実感できる。

④主体的に運営したり作業分担したりすることで、組織的な活動能力が養われる。

⑤広報活動、他学部生との交流、他団体交流等により社会性が身につく。

⑥「学生時代に何をしてきたか」について就活等で自分の言葉で語ることができる。

5. 延べ参加者数（2018年9月15日現在）

（1）児童・生徒

出身別：中国 64、フィリピン 22、韓国 11、フランス 7、ベトナム 6、ネパール 6、台湾 4、日本 4、モンゴル 3、インド 2、ミャンマー 2、バングラディッシュ 2、タンザニア 2、米国 2、マレーシア 1、カンボジア 1、スリランカ 1、エジプト 1、ボツワナ 1、モロッコ 1、チェコ 1、合計 144名

（2）学生

社会文化 66、社会 11、福祉 3、メディア 2、心理 1、2部社会 3、哲学 1、東洋 1、教育 9、日文 5、英米文 1、英コミ 1、法学 2、経済 2、経営 3、大学院 1、国際 10、国際観光 4、人間 1、総合 1、社会人 3、不明 1 合計 132名